

## 『居住福祉研究』執筆要領

2008年5月24日  
2018年12月22日改定  
2019年8月28日改定

1. 査読論文は、15,000字以内(英文概要込み)、その他の論文(評論を含む)は、12,000字以内とする。図表は、A4判で1/4ページの場合は400字、1/2ページの場合800字に換算する。
2. 原稿は、A4判、横書き、1ページ全角35字×30行、10.5ポイントで印字する(空白部分は上記分量に含まない)。ただし、英数字は原則として半角とする。査読論文は、論文タイトル(日本語・英文両方)、キーワード(日・英3語程度)の他、英文概要を300ワード以内で付する。
3. 文体等は、次の通りとする。
  - (1) 「である調」の文体。
  - (2) 現代仮名遣い、常用漢字を使用し、句読点は「、」と「。」を採用する。
  - (3) 文中の敬称は一切、省略する。
  - (4) 送り仮名、漢字等の統一は、ワード・ソフトの校正ツールにより、執筆者が行う。
4. 図表には、通し番号(図1、図2、… 表1、表2、…)でタイトルをつける。その場合、図、表ごとに別紙(別ファイル)に作成し、本文中に挿入箇所を指定する。図表が出版物からの引用の場合は、出典を明記し、必要に応じて著作権者の許可を得なくてはならない。
5. 注は、本文中の該当箇所に、右肩上付きで、1)、2)、3)、… と順に示し、注自体は本文の後に一括して記載する。
6. 参考文献は、注の後に一括して記載する(著者名のアルファベット順)。書籍は、著者名・編者名、発行年(西暦)、書名、出版地(和書の場合は省略)、出版社の順に、論文は、著者名、発行年、論文名、掲載誌名、巻、号(または、編者名、収録書名、出版社)、該当ページの順に記載する。欧文の書名、掲載誌名は、イタリック体(ないしは、アンダーラインを引く)とする。なお、WEBからの引用の際にはURLとともに引用日を掲載する。文献挙示の例は、以下の通りである。なお、注、参考文献は、上記1の分量に含まれる。

例 ・早川和男(1997)『居住福祉』岩波書店  
・Clapham. D. (2005) *The Meaning of Housing*, The Policy Press.
7. 投稿原稿に利用したデータや事例等について、研究倫理上必要な手続きを経ていることを本文または注に明記すること。また、記述においてプライバシー侵害がなされないように注意すること。
8. 査読による修正の要請については、論文の修正箇所を明示し、対応の概要について編集委員会あてに回答すること。